

韓国における口蹄疫が拡大！群全体の症状に注意！

中丹家畜衛生情報（No. 28-46）

平成29年2月発行

韓国において約10か月ぶりに発生した口蹄疫が9件に拡大しました。また、A型ウイルスの感染実験では、O型ウイルスと異なる症状が確認されており、群全体の健康観察をお願いします。



牛の病態

- ・口唇や蹄間に水疱を形成
- ・初期から唾液に多量のウイルスを排泄
- ・発熱・流涎の無い個体もある

豚の病態

- ・強い水疱病変が発現
- ・感染初期から、唾液や蹄の水疱から非常に多量のウイルスを排泄

今回のA型口蹄疫ウイルス感染実験の概要

- ・牛の水疱は、蹄の趾間に現れ、確認が難しいので、注意が必要。
 - ・牛のウイルス排せつ量や、豚での症状とウイルス排せつ量は典型的。
- 牛では、1頭のみに着目すると見落とすおそれがあるため、流涎する個体が多い、症状が急速に広がるなど、群としての異常の有無を確認することが重要。

ウイルス侵入防止対策の点検、消毒の徹底、群の健康観察を！

踏み込み消毒槽の設置

- ・畜舎の出入口に4%炭酸ソーダ（炭酸ソーダ粉末 400g を 10L の水で希釈）消毒槽設置
- ・踏み込み消毒槽は汚れたら交換。汚れが少なくても1週間で交換願います。

家畜の健康観察

- ・突然の発熱やよだれ等の特定症状を発見したら、すぐに家畜保健衛生所に連絡。

